

●増刊号編集後記

本誌「理学療法ジャーナル」の前身である「理学療法と作業療法」が創刊されたのは、1967年1月です。第1回の国家試験実施から約1年後の創刊で、当時の編集委員は砂原茂一先生、上田 敏先生、高橋 勇先生、渡辺昭二先生、山崎 勉先生、駒沢治夫先生、鈴木明子先生、松本妙子先生でした。1988年12月号をもって「理学療法ジャーナル」(医学書院刊)と「作業療法ジャーナル」(三輪書店刊)として発展的に分離独立し、2006年の今年、創刊40周年を迎えました。これもひとえに、歴代の編集委員、数多くの執筆者、そして読者の皆さまのご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

本増刊号は「理学療法の展望2006」と題してお届けいたしました。まず、巻頭座談会にて、理学療法の歴史の中でも特に変化が大きかったこの10年を概観し、今後の展望について論じていただきました。続いて、第1部、第2部にて各領域別の現状と課題を示していただきました。また、日本の理学療法の草創期から活躍されてきた先生方の足跡をたどりながら、後輩セラピストへの様々なメッセージをいただきました。様々な角度から言及していただいている将来展望について、10年後にどのような感慨を持って読み返すことになるのでしょうか。

総目次号は、過去に第20巻13号(1986年)、第30巻13号(1996年)、第35巻13号(2001年)の3回発行されており、4回目となる本号では、「総目次・著者索引第36巻～第40巻」を収録いたしました。附属CD-ROMは第21巻からのデータを収載し、任意のキーワード(事項、著者名)にて検索が可能です。本号がより多くの読者のお手元に届けられ、お役に立てただけことを願っています。

(理学療法ジャーナル編集室)

●付録：2007年カレンダーについて

理学療法ジャーナルでは、巻頭の「とびら」欄でエッセイと共にイラストを掲載しています。作者の皆様は、思わぬ事故や病気を経験された方々です。本号では、40周年特別付録として、過去に作品をご提供いただいた方の中から、植村 衛氏、信木俊輔氏、野辺 学氏にご協力いただき、2007年カレンダーを作成いたしました。カレンダー部分を切り離すと、通常の絵葉書としてご利用いただけます。

理学療法ジャーナル

(第40巻第13号)

2006年12月20日発行
(通常号：毎月1回15日発行)

定価 2,625円(本体2,500円+税5%)

〔2006年年ぎめ予約購読料 22,920円〕
(全13号。配送料弊社負担)

E-mail: ptj@igaku-shoin.co.jp

Web http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/ptj/

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

☎ 113-8719 東京都文京区本郷5-24-3

電話 本誌編集室直通(03)3817-5703

(担当：松田・山崎)

販売部直通(03)3817-5659・5660

広告室直通(03)3817-5696

ファクシミリ(03)3815-7802

振替口座 00170-9-96693 番

印刷所 (株)アイワード ☎(011)241-9341

広告申込所 (株)医薬広告社 ☎(03)3814-1971

・Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2006, Printed in Japan

・本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有しています。

・JCLS <(株)日本著作出版権管理システム委託出版物>

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム(電話03-3817-5670, FAX 03-3815-8199)の許諾を得てください。

●編集顧問●

安藤 徳彦
上田 敏敏
大川 弥生
五味 重春
福屋 靖子
横山 巖

(五十音順、以下同じ)

●編集委員●

網本 和
内山 靖
高橋 哲也
高橋 正明
鶴見 隆正
永富 史子
奈良 勲
吉尾 雅春

●編集同人●

伊藤 俊一
伊橋 光二
今川 忠男
上田 陽之
大峯 三郎
岡西 哲夫
岡本 慎哉
金谷 さとみ
木山 喬博
小塚 直樹
日下 隆一
工藤 俊輔
酒井 桂太
佐々木 伸一
佐藤 秀一
澤田 三津子
高口 光子
富樫 誠二
富田 昌夫
長澤 弘
仲 貴子
中村 春基
丹羽 義明
濱出 茂治
備酒 伸彦
平澤 有里
福井 勉
福田 恵美子
二木 淑子
星 文彦
前田 哲男
牧田 光代
丸田 和夫
丸山 仁司
諸橋 勇
山田 英司